

課題解決と魅力アップ、北部エリアの活性化を目指します。

建設から40年以上経った現在でも、自然豊かで緑あふれる施設内にはアスレチックコースや木製遊具、キャンプ場、宿泊研修施設など、多くの青少年団体や青少年育成団体、学校、市民に利用されています。一方で、施設の老朽化も著しく、建物・設備等の更新時期を迎えており、アスレチック等の安全性確保や施設快適性の確保が求められています。

また、周辺地域との連携などによる北部地域全体の活性化が期待されています。

課題

- 清潔さ（施設やトイレ、池の水）
- 倉庫やバックヤードの不足
- 安全性（主にアスレチック）
- 維持・管理費用（日常的な修繕、なら枯れ、台風等）
- 駐車場のわかり難さと台数確保

改善希望・検討事項

- 認知度の向上と利用しやすさ（ネット予約や混雑状況、プログラムがHPから見れる等）
- 季節や天候を問わずに過ごせる場所、利用率を高める工夫
- 条例や運営要領によって、現代の宿泊ニーズに対応できない（テント泊は団体だけ、かわせみハウスは10人以上からなど）
- もう少し幅広い年齢や多様な層（グループや個人）が様々な時間帯で利用できる
- 売店や休憩所、飲食店、木陰や日除けのあるベンチなど



現在の魅力

- 自然環境が豊か、喧騒から隔離されている場所
- 人工的ではなく自然の中で思いっきり遊べること
- じゃぶじゃぶ池や水源地が魅力
- スタッフ（ボランティア含む）が親切で子どもとの関わり方も上手
- アスレチックが無料で利用できること
- 虫捕りができること



再整備を検討・推進していく上で大切な視点

- 施設周辺エリアの恵まれた自然環境やコンテンツを最大限に活かし、当施設をハブとした藤沢市北部地域の暮らしと魅力向上に寄与する施設を目指すこと
- ビジネス最優先の民間不動産活用とは異なり、公共不動産活用ならではの市民生活の質を高める公益性を重んじる視点を欠かさないこと
- 公民連携に留まらず、市民・民間事業者(整備・運営者)・行政の三方よしについて考えること

再整備で目指す施設の方向性

～今の魅力（自然環境、子どもたちが思い切り遊べる場所）を大切に、
周辺住民やファミリー等も気軽に立ち寄れる、利用できる施設に～

- 清潔で利用しやすい機能やサービスへ
- 安心して遊べる・学べる、日常的に行きたくなる場所へ
- 知り合いや仲間が増える場所へ（多様な利用者が小さな接点を持てる機会の創出：居場所）
- 100年後もつづく「森」のために、環境を守り育てる仕組みやプログラムの導入
- 市民のみんなが知っている、北部地域を代表する、愛され誇れる場所へ
- 市内事業者・生産者、地域プレイヤー等と連携し、北部地域のハブとなって地域経済と魅力を高めていく

再整備で目指す施設の在り方

森と水のキャンパス –体験・創造型ネイチャーフィールド–

子どもから大人まで、これまでの利用者も新たな利用者も、地域住民や生産者、事業者・プレイヤー、行政も、それぞれが役割や立場を超えて、誰もが教える・教わることが可能な関係を育むとともに、地域資源が循環するハブとなり、森や水、ここにしかない貴重な自然環境を守り育てながら、発見や気づきを得て学び合える、体験型の場所を目指していきます。

今後のスケジュール

再整備を検討・進めるにあたっては、下記の点に留意して進めます。

- ・地域資源の発掘や調査、情報収集を行い、積極的な地域連携が図れるよう検討を進める。
- ・民間事業者のノウハウを発揮できるような運営制度検討や民間事業者との連携事業についての調査・研究を進めた上で、民間事業者の公募に向け、条件の検討や整理を進める。
- ・ワークショップやアンケート等を通じて市民意見を取り入れながら、検討を進める。

